

(株)ツムラとの契約による 薬用作物栽培の取組



平成28年2月4日

農事組合法人 ヒューマンライフ土佐

代表理事 山中 嘉壽馬

漢方薬ってどんな薬？

漢方薬はいくつもの**生薬**を組み合わせで作られる薬です。

数千年の年月をかけて、生薬の組み合わせを生み出しました。
それをもとに、日本の現状に合わせて発展させてきたのが、
漢方薬です。



漢方薬の基本的な考え方は病気を治す力を高めることです。

～漢方薬が生まれた背景～

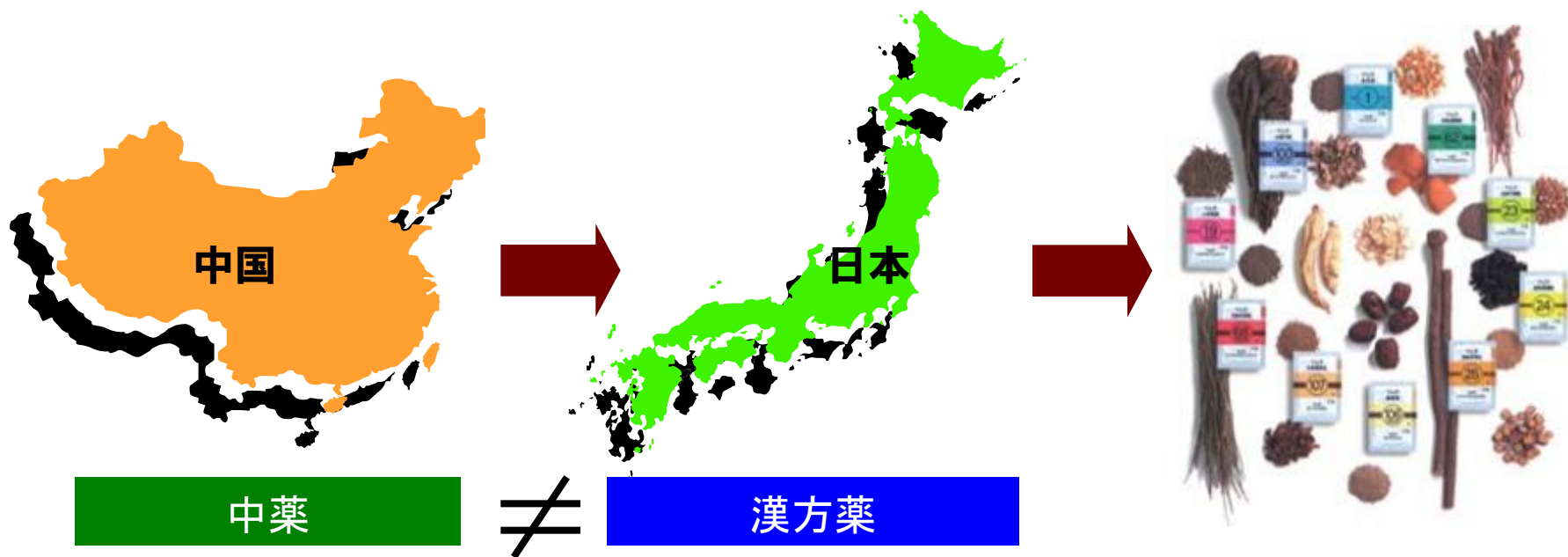
漢方医学は日本独自の医療です

5～6世紀ごろ

古代中国の経験医学が
日本に導入されました

17世紀ごろ

大きく発展して体系化され、
現在へと継承されています



1400年以上の歳月をかけて、日本の風土・気候や日本人の体質にあわせて独自の発展を遂げ、日本の伝統医学となりました



**植物の根や茎などが生薬になり、
漢方薬が作られます**

～薬用作物の産地～

(株)ツムラの生薬契約栽培の拠点は国内外にあります。

ヒューマンライフ土佐は、(株)ツムラと30年来のお付き合いで、サイコ、サンショウ、キジツ、トウキなどの生薬の生産を続けています。



農事組合法人 ヒューマンライフ土佐の紹介

- 設立 平成2年2月3日
- 生産者（組合員等） 480名
うち高知県307名、越知町163名
- 主に栽培している生薬
山椒、柴胡、枳実、当帰、厚朴、乾姜、木通、艾葉、枇杷葉、茶葉
- 個々の生産者をとりとまとめ、(株)ツムラが指定する栽培方法や技術、使用する農薬や加工方法などを周知・指導しています。
- 医薬品の原料となる生薬を、徹底した管理のもとで栽培
ツムラGACPで管理する基準・規則に則り生薬栽培を実施しています。
※ツムラGACP＝生薬の安全性及び品質保証体制をより強固なものとするため、生薬生産標準書・
生薬トレーザビリティ・監査を柱とした(株)ツムラ生薬生産の管理に関する基準
- (株)ツムラとの契約栽培に基づいて収穫した生薬は全量買い取りが行われます。

越知町で生産されている生薬



鎮痛・解熱・消炎作用があります



12月～2月上旬に収穫
根を乾燥して出荷します

越知町で生産されている生薬



7月初旬～8月下旬に収穫
果皮を出荷します

お腹の冷えや痛みの症状を改善する作用があります

越知町で生産されている生薬



7月上旬～8月中旬に収穫
乾燥して出荷します

消化促進、胸や腹の膨満感を改善する作用があります

薬用作物栽培の様子 ～ミシマサイコ～



2月中旬～3月中旬
播種



6月～8月下旬
摘心



5月～8月
消毒



12月～2月上旬
掘り取り



10月
満開のサイコ畑

収穫した根を洗浄・調整



地上部切除



茎と根を切り分けます

(株)ツムラへ出荷



検品

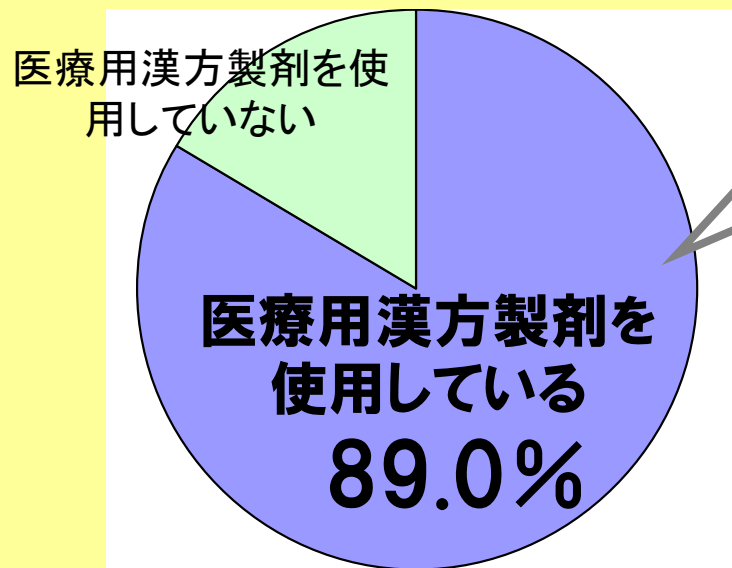


乾燥



～漢方製剤使用の高まり～

医師による漢方薬の使用状況



**9割に近い医師が
医療用漢方製剤を
使用しています**

※漢方薬は健康保険が使えます

漢方薬を使う医師が全国で増えています

2008年;83.5% → 2011年;89.0%

5.5ポイント増

※日本漢方生薬製剤協会調査より

(株)ツムラの医療用漢方製剤売上トップ

1位 大建中湯	腹痛、腹部膨満感 術後イレウス(腸管麻痺)などに伴う痛みや膨満感などの腹部症状に対して、 外科領域を中心に広く使用されている。 ※サンショウが使われています。
2位 補中益気湯	病後の体力増強、食欲不振
3位 抑肝散	神経症、不眠症 興奮、幻覚、妄想、睡眠障害などの認知症の行動・心理症状に対して使用さ れている。 ※シマサイコが使われています。

**仁淀川流域を中心に栽培拡大を目指しています
薬用作物の栽培に
私たちと一緒に取り組みませんか**

